

令和5年度 第4回徳島県文化創造審議会 議事録

I 日 時

令和6年1月29日（月）午後2時00分から午後3時15分まで

II 場所

徳島県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】20名中16名出席

田村禎通会長、吉田和文副会長、有内則子委員、清水英範委員、
鈴木アヤ子委員、武市信宏委員、永本嘉彦委員、西村美咲委員、
藤本和史委員、美馬持仁委員、三宅孝典委員、宮脇由里委員、
森恵子委員、大和あゆみ委員、横畠亜希子委員、四十宮隆志委員

【徳島県】

佐藤泰司未来創生文化部長、加藤幸一統括監兼副部長、
益田英栄文化・未来創造課長 ほか

IV 次 第

1 開会

2 議事

(1) 「第2期 徳島県文化芸術推進基本計画」答申案について

(2) その他

3 閉会

V 議事の概要

事務局

議事1の資料について説明

会長

今、事務局から答申案について説明がありました。これまで3回の会議での審議を通じて策定したものですので、大きな異論がなければこの案でお願いできたらと思っております。ただ、この基本方針を基に、県が実際に事業を実施することとなります。委員の皆様には、実施する施策についてご自由にご意見・ご提言をいただければと思っております。

どなたからでも結構ですので、ご意見ございましたらどうぞよろしくお願い致します。

委員

よろしく申し上げます。

まず盛りたくさんでありますので、パブリックコメントの一覧の表の中で、表現的なもの、細かいことなんですけど、指摘をさせていただきます。まず1ページの表題のところ、1ヶ月で18名というのは、パブリックコメントというには少なすぎると思います。やはりあらゆる世代の方が、文化芸術活動に触れるということが大きな課題でありますので、今、若者文化は特に細分化されておまして、コミュニケーションツール、ネットの口コミが基本であります。おそらくホームページ等で宣伝をしていただいたんだと思うんですが、もう少し文化活動を支援するという姿勢、これでネット上のあらゆる窓口にメッセージを届けていただけたらなと思いました。

加えて、意見を書いた方の年齢とか性別がわからないところが、結果をまとめているものにしてはどうかというふうに感じました。

このパブリックコメントの最後、3ページの「鑑賞機会を提供しております」という表現が引っかかりまして。文化は上から与えるというものではございませんので、常に行政がサポートをするといったニュアンスの方が望ましいかと思われまます。この表現に関しては、実は答申案の9ページの中にもありまして、施策展開「②徳島の文化を感じられる『環境づくり』」の中にもございます。やはり提供するという立ち位置ではなくて、寄り添ってサポートをするという方が望ましいのかなと思います。とりあえずパブリックコメントに関して申し上げました。以上です。

会長

ありがとうございました。事務局いかがでしょうか。

事務局

委員より、パブリックコメントについてご意見いただきました。ありがとうございます。まずパブリックコメントの件数についてですが、ちょうどこの時期、県からはかなり多くのパブリックコメントをホームページで募集しておまして、やはり関心のある方はご覧になり、ご意見を出してくれるのですが、積極的に広報しても、なかなか関心のない方は気軽に投稿するというのではなく、この18名33件というところにとどまっているところがございます。パブリックコメントに関わらず、広報というのをどのようにやっていくかというのは、毎回、その都度考えていくべきだと思っておりますので、ご意見いただきました広報については、今後もどんどん工夫をしてまいりたいと思っております。

2点目の、意見をいただいた方の年齢・性別についてですが、件数と意見の概要はオープンにはするんですが、個人名、そして性別と年齢というところまでオープンにするというのは、パブリックコメントではしておりません。ただ分類分けというのは、ある程度した方がいいのかなと思いますので、そのあたりの意見も、今後、パブリックコメントを実施する際には参考にさせていただきたいと思っております。

そして3点目なのですが、これは計画の方にも関係してまいります、「提供しております」というのと「提供していきます」という表現について、文化というのは、委員がおっしゃるように、県民の皆様と一緒に作り上げていくもので、そうあるべきだと考えております。一方で、「提供していきます・おります」というのは、県が主体として積

極的にこういうイベントをやっていこうという姿勢をあえて出したいという考えでこのような表現にしております。そのための「環境づくり」、この9ページのIにつきましては、まず、文化を感じられる環境づくりに対して、県が主体として積極的に提供していくべきじゃないかというその1点で絞らせていただいて、提供するという言葉、そういう意図を持って書かせていただいたところでございます。ご理解いただけたらありがたいと考えております。以上でございます。

会長

ただいまの事務局のご意見に対していかがですか。

委員

大変よくわかりました。重々承知はしておるんですけど、気になったので申し上げました。失礼しました。

会長

他の委員の方いかがでしょうか。どうぞ。

委員

すみません。同じくパブリックコメントの3ページ「提供しております」、私も気になっていて、意見の概要として「開催してほしい」に対して、その答えが「してます」というふうに取りられるので、否定しているんじゃないかというふうにも受け止められるんですよね。ですので、「提供していく」というように県が主体でやっていくという意味はもちろんわかったんですけども、これをそのまま載せると否定しているふうにも取れるなというふうに考えて、「提供して参ります」とか「していきます」とかそういう前向きな形で表に出した方がいいのかなというふうに感じました。

会長

いかがでしょうか、今の意見に対して。

事務局

ありがとうございます。確かに「しております」ですと、いただいたものに対して「もう今もやっているの、やりません。」というニュアンスにも聞こえてしまいますので、こここのところはお返す際に「提供していきます」「今後もしていきます」というニュアンスで、いただいた意見はごもっともですので、それに対応してまいりますというふうな文言で回答させていただけたらと思っております。ありがとうございました。

会長

よろしいですかね。他、ご意見ございますか。

委員

9ページの1番下「V文化芸術を育む場の充実」というところの下の■の方です。「県民誰もが身近に文化芸術に触れられる機会を創出するため、市町村及び関係機関と連携し、県内の公立文化施設の積極的な活用を図ります。」というところで、昨年、海陽町と吉野川市で開かれた住友紀人さんを中心としたミュージシャン4、5人がおいでた感動コンサートに行かせていただきました。住友紀人さんは小松島市出身で、子供たちに芸術を知らせたい、そしてそれも県を中心じゃなくて、県南・県西というように、全域の子供たちを育てたいという気持ちがすごく大きく感じられました。ただ、惜しかったのは、このパブリックコメントの3ページの24番です。「イベントの開催を終わってから知ることがあります。幅広くいろんな方法で広報してほしいと思います」とありますが、素晴らしいコンサートでありましたのに、空席がたくさんありました。それがとっても惜しい気がしました。鴨島でありましたので、鴨島から来ておいでる小学校の校長先生にちょうど翌日会いましたので、「昨日素晴らしかったよ」って言ったら、「知らなかった」って言うんです。地元なのに知らなかったと言われました。だから、この「県内の公立文化施設の活用」というのは、これはもうできていて素晴らしいと思いましたが、広報の仕方なんです、小中高の学校関係、教育関係というのは、どのようにしたら広報が行くのか、お尋ねしたいです。

事務局

事務局からお答えします。まずは吉野川市までお越しいただいてありがとうございました。こちら海陽町と吉野川市でのコンサートというのは、市町村との連携で行っておりまして、当然、地元の教育委員会とは連携を密にして、共催で行っておりますので、教育関係には市町の教育委員会から連絡はいつているかとは思いますが、ただ、こういうイベントを知らなかったという声は、どうしてもありますので、今回も市町と連携して、地元の人にはできるだけ多く、当然、文化・未来創造課のインスタであったり、そしてホームページであったりで広報はするんですが、どうしても届かない方はいらっしゃいます。そのあたりは先ほど申し上げましたように、どのように広報していくべきかというのは、今後も引き続き検討していくべきものだと考えております。そして、空席があったのは残念なんです、海陽町、鴨島でも思ったよりはすごく多くの方に参加いただきました。というのも、やはり中心部、徳島市内であるといろんな催し物が多いんですが、今委員がおっしゃったように、郡部の方になると非常にこういう催し物は少ないと。だからぜひこういうのは開催してほしい。そして、その地元の公民館なりそういう文化施設を活用できると。海陽町は阿波海南文化村だったんですけど、そういうのは活用できる、活性化にもなるということなので、ぜひ一緒に連携して進めてまいりたいと考えております。広報の点につきましては、お互いにどうしたらいいかというのも、いろいろ相談をしていきながら、今後検討していきたいと考えています。ありがとうございます。

委員

よろしく申し上げます。今のご意見に対して一言なんですけれども、私、今、奈良県

の生駒市で生駒市民吹奏楽団の音楽監督をやってるんですけども、「生駒市制 50 周年」っていうのが一昨年、ちょうどコロナの真っ只中だったんですけども、住友さんに曲を依頼して生駒市制 50 周年を祝う曲、5 分ぐらいでポップス調の曲をお願いできませんかと。住友さんは中学校の後輩に当たるので昔からよくコンタクトは取ってる方なんですけど。その時に発表の場で、小学校・中学校の吹奏楽部、それからママさんブラス、生駒市って結構音楽が盛んで吹奏楽団、いろいろ小中学校は全国レベルの学校が多いんですけども、そういうところも一緒に合同で参加してもらって発表したりとか。市長も来てくださって挨拶してくれたりしたんですけども、そういった学校で音楽をやってる吹奏楽部とか合唱部とかにも案内をして巻き込んで、一緒にやりませんかみたいなことをやれば、そこから広がっていくと思うんですけども、私は音楽なので音楽のことですけども、これは美術とか書道とか、舞踊のことにしましてはまた違ったご意見あるかもわかりませんが、街全体をうまく巻き込むことも大事なかなと思います。それと新ホールに期待されている声が多いですよ、パブリックコメントでは。市民県民が演奏会に行って、聴いて帰るだけじゃなくて、いろんな施設、例えばリハーサル室とか楽屋を使ってもいいんですけども、そういったところに指導者を呼んで普段から何かイベントをやるとか。例えば、楽団が練習できなくなったっていうのもありましたよね、青少年センターが閉鎖されてっていう。そういうのも全部そのホールに付随して、もっと広くいつでもお貸ししますよみたいな形でやっていけば、ホールの整備にもつながるんじゃないかなと思います。私の楽団でも昔、大阪の区民ホールでコンサートやってた時にたまたま来た人、終わってから来た人が、こんな知らんがな、って言われて、いや市民だより見てください、って言っても、なかなかやっぱり目を通さないですよ。なので、実際にそうやって動きがあればもう少し人が増えてくると思うんです。ホールも敷居が高いじゃなくて、普段から出入りができるような何かが起これば、もっともっと活性化していくと思いますので、またそれも意見としてお願いできたらと思います。

委員

お世話になります。今、広報の仕方ですけれども、例えば、イベントとか催しによって、それこそ SNS が効果的なもの、あとやっぱりチラシ、紙物が効果的なもの、新聞とかテレビ、ラジオが効果的なもの、って色々あると思うんですが、例えばイベントごとに分析をして、皆さんで検討しているというようなことを実際になさったりはするんでしょうか。

事務局

委員から広報の現状についてご質問いただきました。ありがとうございます。おっしゃっていただいたように、和のもの、日本風のものについてはやはり新聞広告というのは非常に効果が高いです。また、県民文化祭やクラシックのように若干年齢層が高いものについては新聞広告というのは非常に効果が高いです。それはやはり毎日、新聞をご覧になられている方が多くて、掲載した翌日、翌々日に非常に多く申し込んでいただくと。ポップな催し物につきましては、SNS に動画を撮って投稿したりすると、やはりその後はチケットの売れ行きが良くなる。あと、委員がおっしゃっていただいた

ように、学生さん。音楽祭でしたら、中学校に参加していただいたりするんで、その親御さんが参加していただけると。大体の感触というのは、我々も今までの蓄積した経験があるのでわかるんですが、人気度、例えば同じクラシックコンサートでも、演者さんによってやはり人気度が全然違うので、新聞広告をしなくても全て売れるような場合もあり、新聞広告をした場合で、どれくらい入るかというのも非常にバラバラになっておりますので、一定の傾向というのは掴んでいるんですが、これが正解という決まったルールというのはなかなかないので、いろんなツールで、今模索しながら進めているというところでございます。以上です。

委員

ありがとうございます。

会長

文化活動を活性化するためには、広報活動というのは非常に大事な要素になりますので、今お話しになったこと、今後気をつけてやっていただけたらと思います。

他に何かご意見ございますでしょうか。どうぞ。

委員

広報というところで SNS の活用について話があったんですけども、現役の大学生としてよく使われているのは、インスタグラムがメインだと思うんですけども、最近では映像をメインとした TikTok だったり YouTube ショートというのがメインとなってきていて、特に旅行とかでご飯を調べる時とかは、よく TikTok を調べる友人が多くて、そういったあたりも活用していけたらいいのかなというのを思いました。

会長

ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。

委員

よろしくお願いします。先ほどから広報の話が出ている中で 11 ページの数値目標のところなんですけど、「①徳島の文化を担う『人づくり』」の「V『徳島ファン』の拡大」で SNS のフォロワー数に変更されているというところと、あとその下の「②徳島の文化を感じられる『環境づくり』」の「Ⅲ『あわ文化』の魅力発信」で、こちらもインスタグラムのフォロワー数を入れられているというところなんですけど、この令和 4 年現在の数字を見ていると、上の「『徳島ファン』の拡大」の方はまだ数字が出てないということで、これから新規に立ち上げられるのかなとも思ったりするんですが、実際、ここで内容をどういうふうに棲み分けをされるのかなというところですかね。それと、実際にこうやっていく中で、全く別の動きをするよりも、相互に関連してフォロワーを誘導できるような仕組みにすれば、両方の数字が上がっていくんじゃないかなというふうに思いますので、そこをお伺いできたらと思います。

事務局

ありがとうございます。合わせて広報のご質問をいただいております。まず、11ページのV、SNS「阿波ナビ」の方なんですが、現在もSNSはございます。ただ、人数カウントをしてないということで、横バーとさせていただきます。そしてこの「阿波ナビ」というのは、徳島県全体の観光を幅広く発信するもので、観光部局の方が管理しており、徳島県全体のものです。一方で、この下の「Ⅲ『あわ文化』の魅力発信」の、文化・未来創造課のInstagramにつきましては、まさしく当課単独のものです。どちらかというとターゲットをギュッと絞って、当課が主催するようなものについて、一度来ていただいた方、そちらの方にすごくタイムリーに、それ以外の情報は特段発信せず、情報発信しているところです。1つにまとめた方がいいんじゃないかという意見も確かにございましたけど、今のところいろいろ模索する中で、幅広いフォロワーを持つもの、コアなファンがいるようなもの、こういうふうには2本立てで行って、将来的には統合するか、やはりコアな部分はコアな部分でいくか、そういうことも検証してまいりたいと思っております。

あと、先ほど委員の方からありました、確かにすごく気軽に見えるのはTikTokとかYouTubeショート、そういうものが若者にとっては、垣根が低いところだと思いますので、合わせてそういう点も含めて今後検討していきたいと思っております。以上です。

会長

この「6 指標及び数値目標」というのは、工程表で実際に具体的に数値を出すということで、かなり議論を進めた結果、こういう形にさせていただいたわけですけど、このことに関して何かご意見ございますでしょうか。

例えばですね、この12ページの「徳島の文化を活用した『地域づくり』」の中で、「Ⅱ 文化資源を活かした文化観光の推進」というのが、これが文化の森総合公園文化施設、文学書道館及び阿波十郎部屋敷の入館者数ですね。令和4年が96万人で、令和10年が98万人ということはほとんど数字が増えてませんね。これ目標としてどうかなって気がするんですけど、いかがでしょうかね。もうこれでいっぱいなんですか、98万というので。

事務局

ありがとうございます。確かに、この数値を目標とするのは、いろいろな部局間と協議をさせていただきました。これだけ人口が減ってくると現状維持がいっぱいいっぱいなところもありまして。

会長

人口減少と文化芸術を楽しむ人たちの数が減るっていうことは並行しないと思いますよ。それはいかがでしょうか。

事務局

時代に合った講座とか魅力があるものについては、会長がおっしゃっていただいたよ

うに、人口が減っても魅力があれば人というのはどんどん集まってまいります。ですので、少しずつでも増やしていこうというので講座とか施設の中身ですね、そういうものを魅力的にしていくべきじゃないかというので、部局間といろいろ調整をしたところ、頑張ってみようという数字で、若干ずつではございますが、現状よりは上げていくという目標を立てさせていただいたところでございます。伸びが確かに、本当だったらもっと伸ばしたいなというところではございますが、なかなか現実を見ると厳しいところがあり、若干の増とさせていただいたところでございます。

会長

いかがでしょうか。

この工程というのは、あくまでも年度別の事業計画であって、毎年検討していくということですから、計画よりも大幅に増えるということもあるでしょうし、それから計画通りいなくて少し減ってくるということもあるかも知れませんが、それはその時、年度ごとにですね、検討してどうやっていくかという、そのための目標数値ですから。これはこれでいいかなと思いますけれどもね。

いかがでしょうかね。どうぞ。

委員

今の話もあって、こういう計画を立てる時っていつも右肩上がりでないで怒られそう、というのがあってなかなかこういう指標というのは作りにくいというのは、ご苦労もよくわかります。難しい話で、数字を立ててそれに合わせて計画するのか、それともこういうことをするからこのぐらい増えると、いや、数字が後から来るのかってというのはあるんですけど、一応先に目標を立てるのであったら、ある程度やっぱり前向きな数字というのは必要なのかなということは思います。その数字、これはどれぐらいがいいのかということも、なかなか。だから、目指せ 100 万人とかそんなのもあるのかもしれないけれども、ただ、私、何が言いたいかというと、やっぱりアンケートがいつもありますよね、イベントが終わった後のアンケートでね。やっぱりそこをよくしっかりと、何を把握したいのかというのを決めておく必要があるのかなと。例えば、リピーターがどのぐらいいるのかですね、それから、特によく「次どんなものをしてほしいですか？」とかそういうアンケートありますよね。で、「ここの建物を利用したのは初めてですか？何回目ですか？」とかね。だから、リピーターを増やそうとする戦術で行くのか、この分野がいいのかとか、そういった狙いというのをはっきりさせたようなアンケートというのがあった方がいいかなと。それもあんまり多いと書いてくれないのでね。例えば、後から家へ帰って打ち込んで送ってもらうというようなアンケートでもいいと思うし、アンケートの取り方も含めてですね、その内容をしっかりとこれから活用できるアンケートってどんなものなのかというのは、もう一度きちっと見てみた方がいいかなと。例えば、文化の森総合公園文化施設といっても、普通の日は何人来館して、そしてイベントがあった時に、どんなイベントがあった時にはこのぐらい来館して、というのでも違うと思うんですね。やはりある程度大雑把にこれぐらい来たらいいわ、というのじゃなくて、少しめんどくさいんですけど、もう少し細かく分析をするということは、と

ても大事なかなと。次の計画を立てるためにも大事なのかなというふうに思います。言うのは言えてもするのは難しいんですけど、またお考えいただけたらと思います。よろしくをお願いします。

委員

失礼致します。実は中学校の文化連盟の中央大会というのを今年、コロナの前と同じような形でさせていただきまして、3日間文化の森をお借りして、延べ約2000名が訪れてくれました。でも、これは書道とか絵画とか立体とかいろいろな作品の展示、それから表現活動、新野中学校の人形浄瑠璃であるとか城西中学校の合唱とか、いろいろなイベントを含めた3日間でそのくらいだったんです。この間も、役員会があったんですけども、やはり次年度はもっと呼びたいと。そういうふうな表現活動を通して、中学生がこれだけ頑張ってるっていうことを、やはりどういった形で広報したらいいのかって。今まさしくこういうふうにお話しなさっていることが、やっぱり個々のそういう団体でも話されているんですね。だから、非常に大きな部分なんですけれども、それぞれの分野でそれぞれが計画をしているイベントで、やはり大きな数値目標が年々必要なんですけれども、それぞれのイベントしているところで、こういうふうなこのくらいの目標が欲しいっていうのを、それぞれがやはり持つっていうことも、質や内容じゃなく、数のことだけ言いますと、そういうふうな目標をそれぞれが立てるということも1つ大事なんじゃないかなとは思っています。表現するとか、作品を作ったりというのは、やはり子供たちにしても大人にしても、見てもらったり、観客がいるということで、生き生きしたり張り切ったりするものだと思いますので、先ほど委員さんもおっしゃってまして、私もよくわかるんですけども、これだけいいものなのに、おいでてなかったら、その方に悪いとか、それからせっかくなにもったいないなっていう気持ちになるというのはよくわかります。ですから、やはりそれぞれのイベントでこれだけは、というような目標を持つ、それぞれの主催者が意識を持つということも、数値目標だけのことを言いますと、少しずつでも上がってくるんじゃないかって、そんなことを思っております。以上です。

会長

ありがとうございました。

委員

入館者の話がございましたけれど、例えば私どもの財団で管理をさせていただいております文学書道館につきましては、指定管理ということで5年間、ある程度メニューを示され、その上で企画をし、一生懸命努力をさせていただいているわけです。入館者をいかに増やせるかというメニュー立ても含めて、また県の方ともご相談・ご要望とか、すり合わせをしながら、進めていきたいと思っております。

それと、計画全体については、皆様のご意見がどんどん吸収されて非常に良いものになったと思います。加えて、この計画の中では観光の要素がたくさん出てきます。お伺いすると、県の組織も文化と観光が1つの部になるというようなことも聞いておりま

す。したがって、もともと近い関係だったかもしれませんが、これが出来上がった暁には、観光セクションはより身近になってくると思いますから、より県の内部でも連携がしやすくなるのではと思っております。

また、この計画をいかに推進していくかというのが大事だと思うんですけど、この計画自身、県及びその県の関係機関が主体の場合は、実施しますと言い切ってるんですけど、民間の方とか県民の方には「なんとかが期待されます」という表現にならざるを得ないと思いますけれど、この辺がいかに連携できるかというのは大事なことだと思いますので、より我々も含めて努力していきたいなと思っております。以上です。

会長

他にいかがでしょうか。どうぞ。

委員

市町村の立場から言いますと、本当は黙っておこうかなとは思ったんですが、最後にあります「主体」の中でも市町村とありますので、この計画を県と一緒に実行していく立場でもありますので、すごく喋りにくいところなんですが、パブリックコメント、確かに件数は少ないですが、この計画自体に大きな批判とかがないということはやはり素晴らしい計画だと思っております。こうした中で、文化と地域づくりというようなところが、特に郡部の我々の文化行政を担うものとする、一番密接に関わってくるところだと思っております。特に徳島県といいますと、やはり文化というと、まず阿波おどりと人形浄瑠璃という二本柱がすごく大きいなあとっておるんですが、郡部の中ではやはりもう間もなく途絶えようとしている地域伝統芸能というのがたくさんまだ残っておりますので、そういったところをどうにかして、県の人とか、また他の同じような文化芸能が残っているような市町村と協同して、取り組んでいけたらなというような感じは掴んでおるところでございます。

また、前の会でも述べさせていただいたんですが、やはり今1番頭を悩ましているのは広報と言いますか、何をするにしても、イベントの周知だけでなく、こういった活動してますよというところの広報にも頭を悩ませているというのが実際のところでございますので、そういったところをまた皆さん共々、市町村も一緒になって研究をしていきたいなと思っております。以上でございます。

会長

他にいかがでしょうか。どうぞ。

委員

答申案の中で、いくつか表現のニュアンスについて気になったところを先に申し上げます。まず7ページの「5 基本方針」の「(2) 目標」ですね、大きな文字で書かれている「文化芸術の力により、持続可能で魅力的な徳島県へ」というフレーズがあるんですけど、「持続可能」、いわゆるサステナブルというのは非常に使い古されてるワードでありまして、あまり新味を感じないということもあります。実は高度成長期にメタボ

リズムというワードがあって、要するに、古いものから新しいものへというニュアンスが含まれているわけですが、ここは1つ、令和版の新陳代謝メタボリズムというのを盛り込んでみてはいかがなのかなという、そういう視点もあっても良いのではないかと。あまりにも「持続可能」と「安心安全」というのが本当にどこを見ても散らばっている世の中で、あまりワードとして力を感じないというふうに、私は常々思っております。

会長

具体的にはどういうふうに直したらよろしいですか。

委員

はい、「持続可能」というところを、「新陳代謝可能」とかそういった感じで。古いものを使いながら新しく、というようなニュアンスです。持続可能というところ、旧来のものをそのまま現状を維持するというニュアンスが私には強く感じられたので、1歩でも2歩でも、若者を取り込んで新しく前へ進もうというニュアンスが欲しいなというふうに感じました。

それともう1点、やはりニュアンスの問題で9ページ、1番上の表題のところでは、「徳島の文化を感じられる『環境づくり』」という言葉があるんですけど、「感じられる」というのが今1つぼんやりしているイメージがありまして。やはりここは、強く徳島の文化を体現するというぐらい言い切ってもいいんじゃないかなというふうに感じました。表現のニュアンスに関しては、気になったのはその2点でございます。

全体の答申案を通して、私が感じた部分をいくつか申し上げます。まず6ページ(4)、今回この写真を入れていただいたのは非常に効果的だったと思います。本当にわかりやすいというか、ここから考えを広げていくことに非常に参考になりました。この(4)の、「文化と経済の『好循環』」というところがございまして、これは徳島県の方が主体となってされている「にぎわいづくり構想」、万代ふ頭付近のまちづくりということで、そこの大きなイメージロゴの作成とか、あとは倉庫をリノベーションした、万代ふ頭近辺の文化的なものの商業的なものの充実ってということで、ここ数年、非常に目を見張るものがあるなと思って感心しておりました。写真にあるように、ひょうたん島クルーズですね、これは本当に人気があるみたいで。ここをうまく文化拠点と絡めて、水上交通とも絡めて、集中的に応援する体制というのを考えていただけたらありがたいんじゃないかなと思いました。

実は皆さんにお配りしてあるこのフライヤー、来月、私どもが関わる展示会のチラシではありますが、この表紙のキービジュアル、これに関してもこの万代ふ頭の大きなテーマと言いますか、ロゴデザインを担当されたデザイナーの大東さんに担当していただきました。今1番のりに乗ってるデザイナーでありまして、そういう方がこういうところにも関わっているということで徳島県の企画の中ではありますが、そういうデザイナーとも協力していただけるというのは非常にありがたいなと思っております。

もう1点だけ申し上げます。最近、鳴門市の方で株式会社ポケモンのご当地マンホールというんですかね。通称ポケフタっていうらしいんですけど、これを設置したというニュースがありました。私も以前申し上げました通り、松本零士作品のマンホールデザ

インとかを東京の大泉学園駅周辺で見してきました。やはりそういうオブジェというか、常設物というのは観光客には大変、いつまでたっても魅力的なものであります。徳島には、アニメ制作会社ユーフォーテーブルという非常に今も「鬼滅の刃」でのりに乗っている会社がございますので、そことも協力をして「鬼滅の刃」のマンホールデザインとかがあれば、たちどころに人気が出るのではないかなというふうに思っております。散らかってしまいましたが、以上です。

会長

いくつか言われましたけれども、まず文言の7ページの目標、「文化芸術の力により持続可能で魅力的な徳島県へ」という表現についてご意見がございましたが、この件に関して事務局どうですかね、お願いいたします。

事務局

委員からご意見をいただいております。この目標、それと、先になるんですけど、9ページ「文化を感じられる」の文言につきましては、第1回目から提示させていただいて、3回議論していただくのと共に、県議会の方にもこの文言でご説明させていただいておまして、おっしゃるようにインパクトはないものの、本質は変わらないということで、この目標でご理解をいただいているというところでございます。

もしこれで特段大きな間違いや方向性がずれているようであれば、文言的にはこれでお願いをできたらと思います。

会長

第1期計画の検証をかなり詳しく、写真も入れてやっておられますね。それで、これを引き継いで第2期をさらに発展させる形で計画したということにつながりますから、私自身は「持続可能」でいいんじゃないかって気がしますがそれでもね。どうでしょうか。

委員

早いです今、サイクルが。1年もたってしまうと本当に古くなってしまふ。それぐらい文化というのは、水面下で細々とした新陳代謝を繰り返しているということを皆さんの中で感じてもらって、頭の片隅に置いてもらえたら私、ありがたいなと思います。以上です。

会長

それから9ページ「徳島の文化を感じられる『環境づくり』」、これも今説明がありましたけど。

委員

言葉のニュアンスのお話ですので。伝えたい内容というのはもちろん重々承知はしておるので、先ほども申し上げた通り、やっぱり変化のサイクルというのにどれだけついていってるかというのは若者は非常に敏感であるということだと思えます。以上です。

会長

多分、これは、意味合いは「徳島の文化を『より』感じられる」というか。今まで以上にその魅力がわかってもらえるようにというふうなニュアンスが入ってますね。

委員

会長が今言われたように、「より」を入れれば強くなりますね。

会長

ちょっとニュアンスが違いますよね。どうですかね。

事務局

委員がおっしゃっていただいた「体現する」という言葉の意味あいというのも、今、委員からもご発言あった「より感じられる」というようなニュアンスを含むというようなご理解でも大丈夫でしょうか。

委員

結構でございます。方向性は全く同じだということは、私も重々承知しておりますので、それは皆様のご意向で決めていただいて構いません。

事務局

では、この場では、「感じられる」をベースに「より」を加える方向で考えさせていただけたらと思います。最終的には会長とも相談して。ありがとうございます。

会長

確かにこの写真が入って、第1期が実際にこういう事業をやって成果がありましたという意味合いがよくわかるわけですね。それを引き継いで次の5年間ということですから。

何か他にご意見ございますか。どうぞ。

委員

直接関係ないと思いますが、最近、特に人が集まった例を2つ感じるがありました。1つは「徳島オペラ」です。12月にありました。そのチケットがもう早々に売り切れてしまったんです。それは主催者側もびっくりしていました。徳島というのは、文科芸術に対する思いが深いというか、レベルが高い、そういうのをすごく感じました。コロナで何年間できていなかったというのもあると思いますが、それにしても早くにチケットが売り切れてありませんというのにはびっくりしました。それが1つです。もう1つはこの今言われた水上タクシーの写真のところなんですけれども、これほど人が集まるのかってという体験をしました。それは12月24日のクリスマスの時に、万代ふ頭、私行ったことなかったんですけど、孫が行くっていうもんですから。初めてクリスマスの夜に行きました。水上タクシーに乗ったサンタが、万代ふ頭には19時に来ると言う

んでね、10分前に行ったんです。すごい人で、ものすごい行列なんです。そして水上タクシーがクリスマスの音楽を流しながら、乗ってる人が踊りながらやってくるんですよ。もう、興奮してるんです、子供たちは。最初の100人にプレゼントをくれるというので、並んでいるんです。それで孫を連れて行ったのは10分前なんですけど、ここからはもうプレゼントはありません、というのが、ずっと先なんです。皆さん、行ったことありますか？私、初めて行って、これほど人が集まってくるのかと思いました。その理由は、1つは夢があるということ。もう1つはプレゼントがあるということなんです。そして、小学校1年生の孫が、そのプレゼント、こんなに大きな袋に1人1人もらってるのが羨ましくて、明くる日も行くと言うんですよ。それで、明くる日17時に行ったんです。そして待ったんです。そうしたら前から10番目とかいうので、もらえたんですね。今日は特別にクリスマスケーキが50番までありますと言われて、もう大喜びで帰ってきました。人というのは夢があって、プレゼントをくれるというなら、これほど集まってくるのかというのをクリスマスで感じました。だから、人数をどうやって増やそうかって、今、たくさん相談してますけれども、こういうことにもヒントがあるんじゃないかと思いました。

会長

1つはコロナ禍を脱したということが大きいと思います。徳島交響楽団が毎年コンサートをしていますけど、今年は文理大学のむらさきホールでありました。私も何回か行ってるんですが、今年はほとんど満席でしたね。コロナの反動と言うのか、コロナ前に戻りつつあるという感じがしています。だからこの目標も、数値はもう少し努力して多くなるようにしていけたらと思いますけどね。

委員

今会長がおっしゃられたように、100万という目標を掲げてはどうでしょうか。100万達成という喜びがあると思います、98万よりも100万達成という方が。

会長

不可能ではない感じはしますけどね、目標として。
どうぞ。

委員

徳島市内中心部でもものすごく人が集まっているというお話がありましたけれども、パブリックコメントの方にもありますように、この計画においても徳島県の中心街での活動というものがメインのような目標になっているのかなと思います。パブリックコメントの6番のところですね、中心部と郡部では文化芸術に触れられる機会の格差があるように思うので、そのような格差が少しでもなくなるように取り組んでほしいというご意見があります。それに対して施策の「②徳島の文化を感じられる『環境づくり』」の方で対応してまいりますというお返事なんですけれども、具体的に県の方で、郡部の方での開催の数値目標であるとか、連携をされているとか、これからの計画があるかという

ようなことがあればお聞かせいただけたらと思います。

事務局

ありがとうございます。今、委員からやはり市内と郡部の差が大きいということをおっしゃっていただいております。委員からもございましたように、なかなか都市部以外のところでは難しいというのがありまして、今回は阿波海南文化村で住友紀人さんの音楽コンサートを県主催の方でさせていただきました。そういう単発のイベントも今後やっていきたいと思うのと同時に、これも委員がおっしゃっていたんですが、阿波おどりと人形浄瑠璃、それと委員ご専門の藍とか、そういうわかりやすいものではなくて、地元の伝統芸能というのが本当に今も危機を迎えております。後継者が少ない、やってくれる人が少ない、子供がいない、本当に人がいないというところで、そういうところにつきましても、できれば県としましては全県下、そのような活動に対して補助を行いまして、できるだけ高い補助率で整備していこうと思っております。そのあたりがこの「環境づくり」という中で、連携して発表の確保に努めてまいりますとか、そういうふうなところにも入ってまいります。数値目標としては、毎年度の予算が関係する部分もあります。実は委員がおっしゃっていただいたことは非常に重要なことと思っております。各地域の文化を守っていくというところで、1番根本となる、委員がおっしゃっていただいた、文化はどんどん変わっていくというところでにぎわいというのも非常に大事なんですが、一方、各伝統文化を守っていくという、そこはやはり大きな我々の柱でもございますので、その点はしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

委員

最後ですので、一言も言わずに帰るのもどうかと思ひまして。今までの皆さんのご意見をすごくきちんとまとめていただいたと思います。

先ほどから議論のあった阿波十郎兵衛屋敷の入館者数の推移ですけれども、やっぱりコロナの前だと観光バスに40人定員だったら40人乗ってきていました。ですけど、今は大きいバスに10人とか15人という、旅行の実態も変わってきて、単純に入館者数を増やすということが非常に阿波十郎兵衛屋敷も苦労してます。それで、いろんなイベントを打って、それもやっぱり普段よりも変わったこととか、プラスアルファがあるものがあると、どうして今日こんなに、というぐらい来てくださるんです。広報はいつもと同じようなチラシですとか SNS の発信ですとか、いろんなことで同じようにしてるんですけども、やっぱりプラスアルファのものがなくなかなか来ていただけないので、そういうちょっとした工夫というのがそれぞれの館、阿波十郎兵衛屋敷もそうなんですけれども、必要になってくるかなと。ただ、阿波十郎兵衛屋敷の職員としては、毎月のようにイベントいろんなことをしてますので、非常に休みがなかなか。ほとんど休館日がないので、年末年始の4日間だけです。非常に勤務もやりくりしながら、忙しく立ち働いてやっと今、微増というか、コロナ禍前に少しずつ戻ってきてるかなというぐらいになってますので、非常に苦しい思いをしながらイベントもやって、それで入館者数をなんとか増やしていきたいというふうに考えているということも、皆さんご承知いただきたいなと思ひまして、発言させていただきました。

会長

人口減少社会で、いかに若い人たちに徳島に残っていただくかが課題です。いろいろな資料を見ていましたら、祭りが非常に盛んなところは、若い人が残っているというデータがあります。若い人がその土地を愛し、定着するためには、いろんなファクターがあると思いますが、文化、芸術とそこに含まれる祭りなどは大きな要素になると思います。徳島には、阿波おどりと人形浄瑠璃がありますが、いわゆる伝統芸能といわれるものも、もう少し工夫をして、若い人が積極的に参加できるような、そういう街になっていかないといけないんじゃないかっていう気がしております。

ということで、そろそろ時間がきますので、委員、最後に一言。

委員

ありがとうございます。今、皆さんの様々なご意見を拝聴いたしまして、非常に感銘を受けています。また、会長さんの「教育機関からの視点」ということで今、若い人に残ってもらう方策としての文化芸術の振興による魅力づくりという点は、私も今大学で勤務しておりますので、全く同感でございます。

また先ほどから、指標目標の話が出ておりまして、行政計画ということで考えた場合は、非常に慎重な積み上げをされて、4000人ずつ増やして98万人ということで1つ堅実な数字目標ではあるのですが、やはり皆様方ご指摘のように、夢というものはあまり感じられないのかなと思います。しかしながら、行政計画ということであれば後で一定の評価をされるというわけなので、堅実に積み上げた数字を書くのはやむを得ないのかなと思います。ただですね、気持ちとしてはそこはやはり、この今の示されたKPIにとどまらず、100万を目指して頑張っていたいただきたいと。目標数字は数字として置いて、やはりもっと言えば倍増ぐらいを狙ってやっていただいた方がよろしいのかなというふうに思います。まず、先ほど会長がお話されましたように、若い人に残っていただくというのはやっぱりその町と言いますか、その都市・地域にやはり魅力があるかどうかで、非常に大きな部分がございます。就職もそうなんですけど、進学の場合もそうなんです。そこはやはり我々も含めて県を挙げて、徳島の魅力をもっともっと強く作っていかなくちゃいけないというのは痛感しております。この計画を基に、今後皆様方と一緒にそういった徳島の魅力というのを作り上げたいというふうに考えております。ありがとうございました。以上です。

会長

どうもありがとうございました。

それでは、最終案は、原案通り全会一致ということでよろしいでしょうか。

異議はないようですので、そのようにさせていただきたいと思います。

次に議事の2番として、その他ということで何か付け加えるようなことございましたらどうぞ自由に発言なさってください。

よろしいでしょうか。それでは、議事進行にご協力いただきありがとうございました。事務局に戻します。